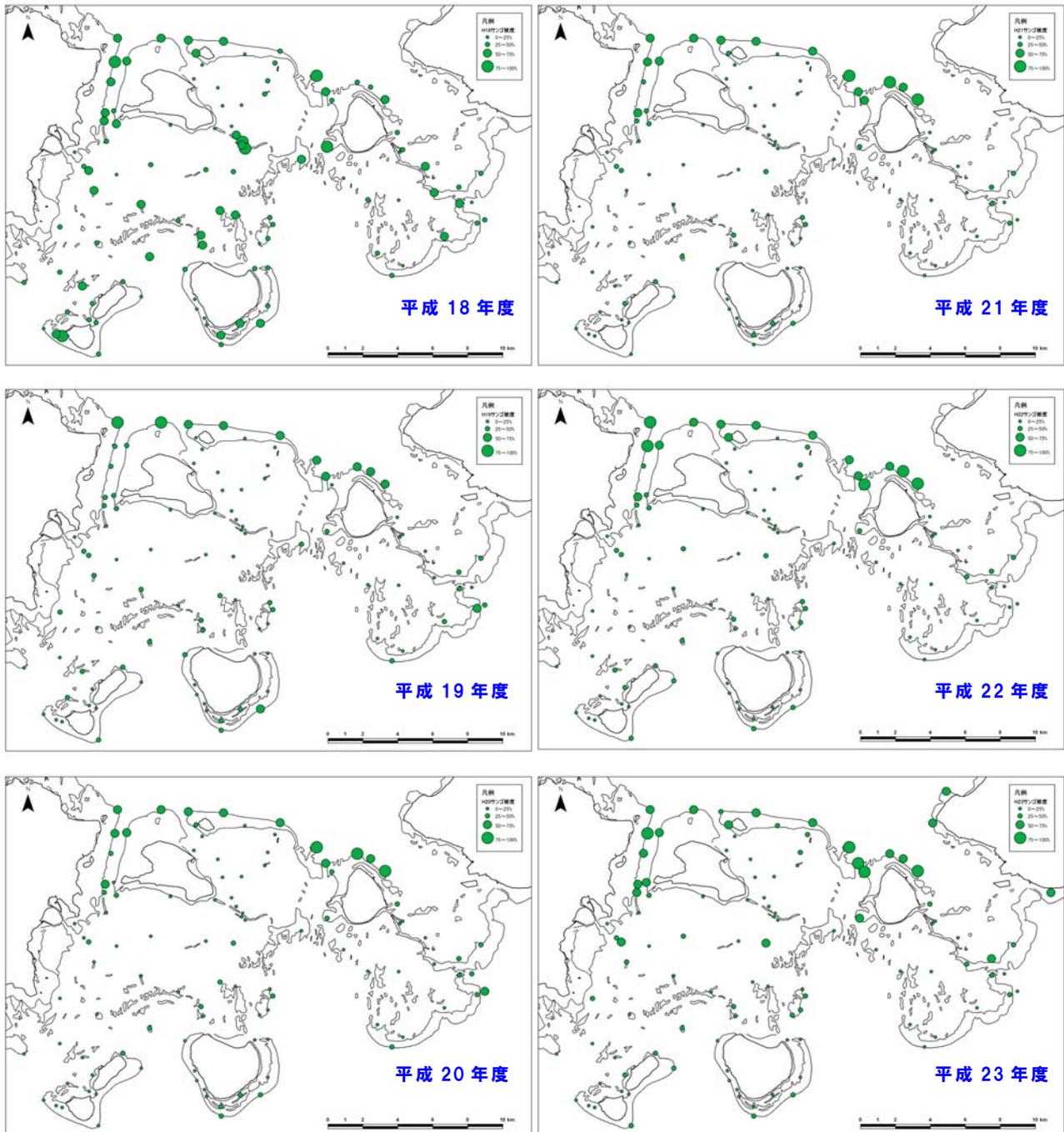


石西礁湖におけるサンゴ群集の現状

①サンゴ被度

- 平成 18 年度時点では、比較的高被度（25%以上）のサンゴが礁湖全体に分布。
- 平成 19 年夏の大規模な白化現象によって、南側礁池を中心に多くの地点で被度の減少。
- 白化現象後も被度は顕著な回復は見せていない。その原因は台風による攪乱もあるが、オニヒトデやシロレイシガイダマシ類による食害などによるところが大きいと考えられる。

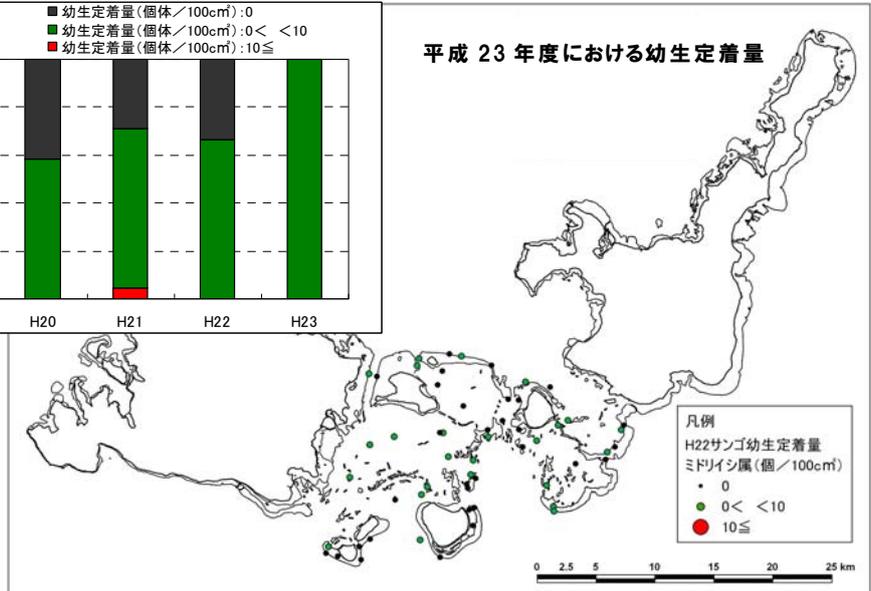
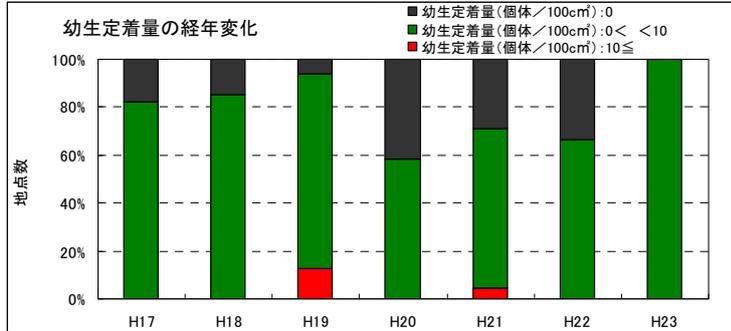
<凡例> ●:0~25% ●:25~50% ●:50~75% ●:75~100%



石西礁湖におけるサンゴ被度の変遷(平成 18~23 年度)

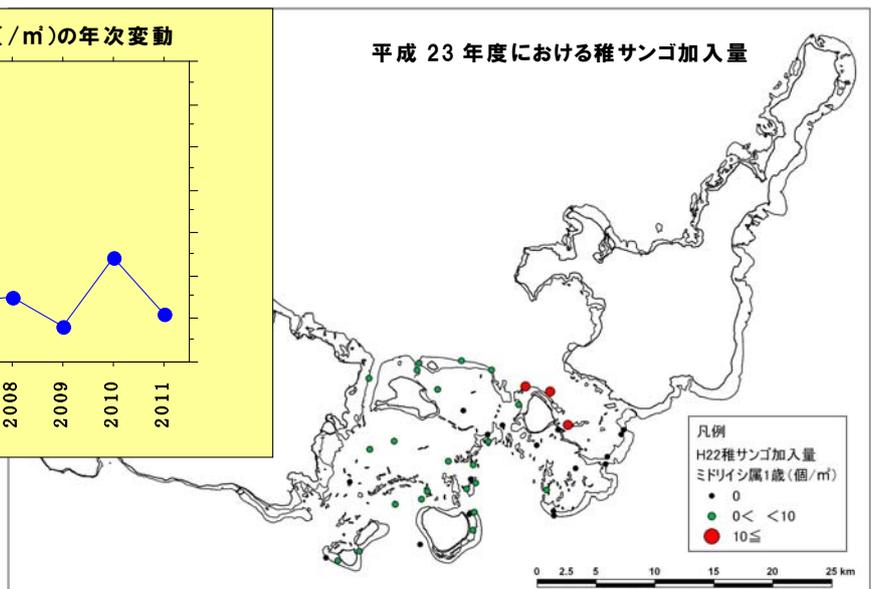
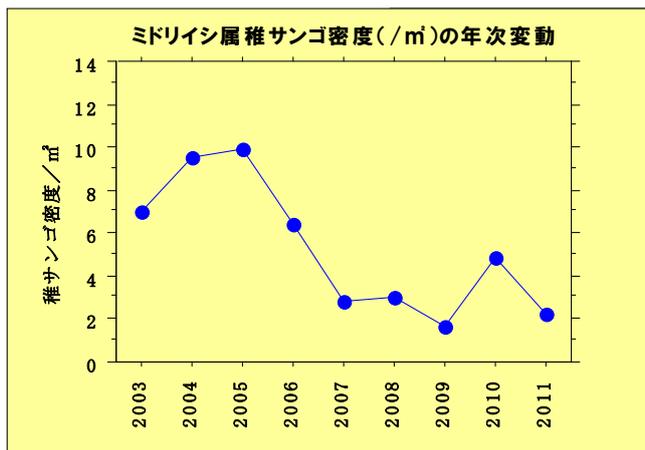
②サンゴ幼生定着量

- ・ 定着加入の状況は依然厳しい状況。
- ・ ミドリイシ属稚サンゴ密度が0だった調査地点は、平成20年は23地点、平成21年は13地点、平成22年は18地点、平成23年度は10地点と減少した。



③一年生稚サンゴの新規加入量

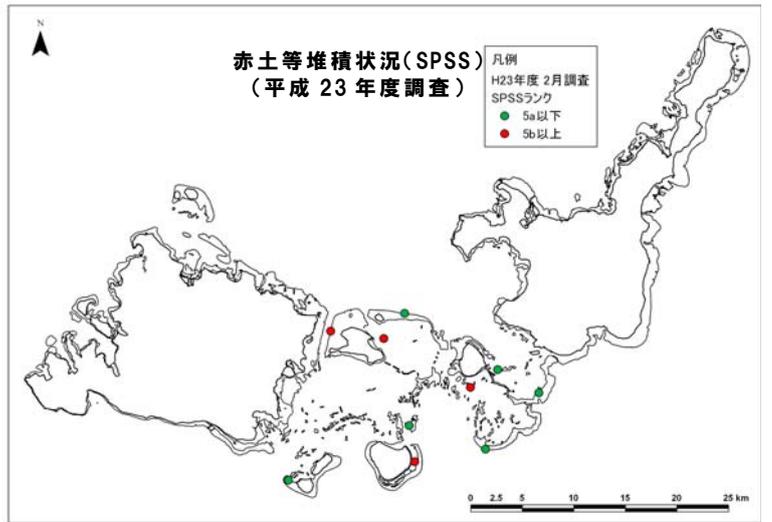
- ・ 2004、2005年は全調査地点の稚サンゴの平均密度が、自然再生可能な加入量といわれる10/m²を超えていたが、以降は漸次減少している。2010年加入は回復傾向を示したものの、2011年度は再び以前の水準に減少した。



④攪乱要因

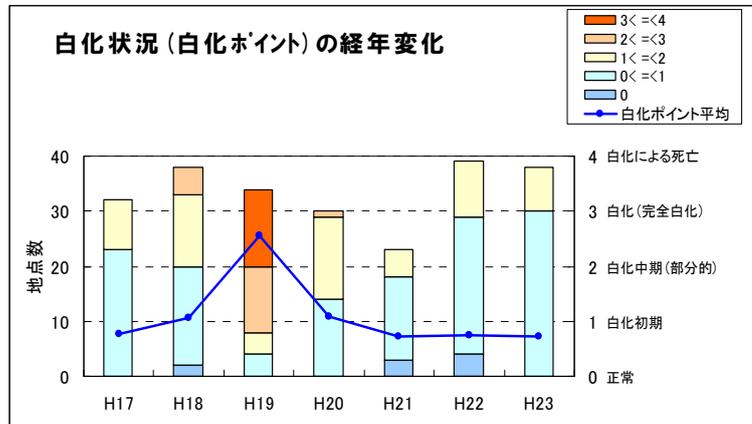
◆SPSS

- 平成 23 年度 2 月調査では、SPSS ランク 5a 以下の地点が比較的多くみられた。



◆白化状況

- 平成 18 年度から白化の傾向が見られ、平成 19 年の大規模白化が起こった。その他の年度においては、白化は限定的である。



◆オニヒトデ

- 石西礁湖北礁、石垣島北側を中心に大発生している状況。

